



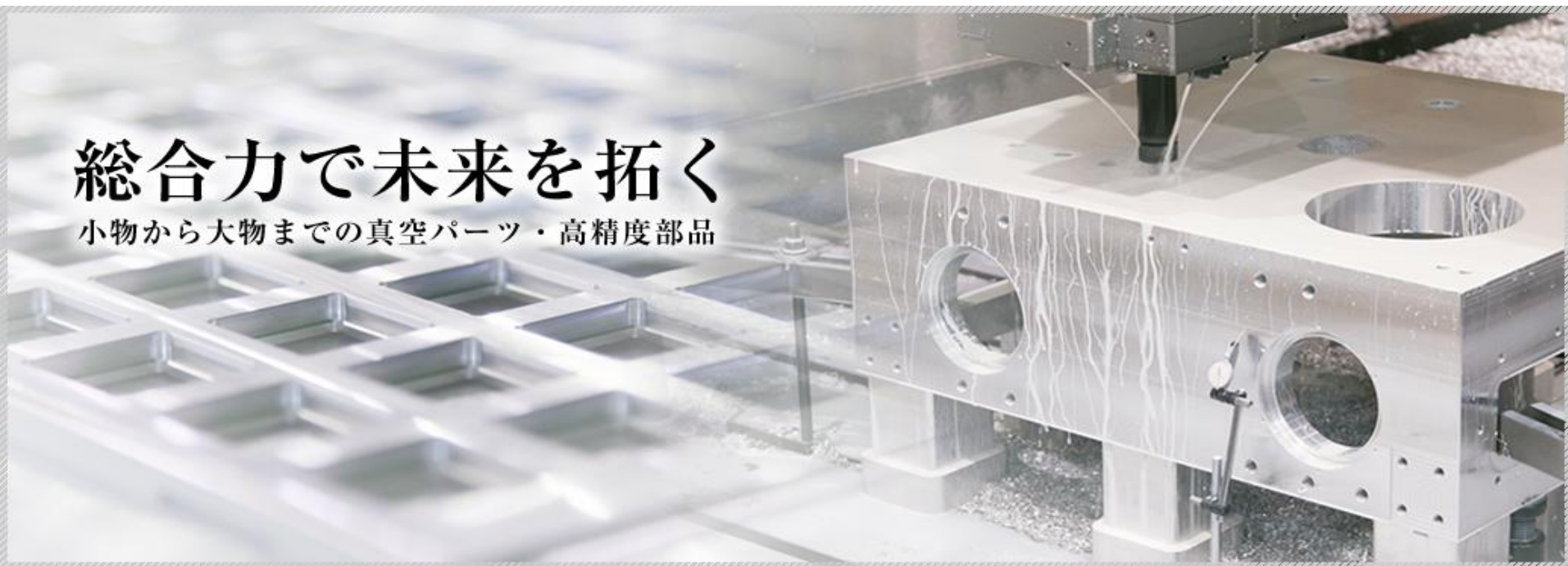
東証(TSE):6264

株式会社マルマエ
2020年8月期 第3四半期決算 補足資料

2020年6月30日

総合力で未来を拓く

小物から大物までの真空パーツ・高精度部品



1. 決算概要

PL分析

PL

	2019年8月期 第3四半期累計期間		2020年8月期 第3四半期累計期間		対前年同期 増減率 (%)
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)	
受注高	2,666	—	3,272	—	22.8
受注残高	747	—	903	—	20.8
売上高	2,948	100.0	3,182	100.0	7.9
売上原価	2,144	72.7	2,191	68.9	2.2
売上総利益	804	27.3	990	31.1	23.2
販売管理費	446	15.1	361	11.4	△19.0
営業利益	357	12.1	629	19.8	75.8
経常利益	345	11.7	600	18.9	73.8
特別損益	△4	△0.2	109	3.4	—
当期純利益	225	7.6	493	15.5	119.1
EPS (円)	17.25	—	37.97	—	120.1

Point

① 受注状況

- 半導体分野：2,514百万円
(対前年同期：13.1%増)
- FPD分野：742百万円
(対前年同期：81.0%増)
- その他分野：16百万円
(対前年同期：50.6%減)

② 売上高

- 対前年同期7.9%の増加
- ※分野別の詳細は次頁

③ 売上原価・売上総利益

- 材料費：18百万円増加
(対前年同期：3.7%増)
- 外注加工費：5百万円増加
(対前年同期：1.6%増)
- 減価償却費：42百万円増加
(対前年同期：13.4%増)

④ 営業利益

- 販管人件費：4百万円減少
(対前年同期：2.5%減)

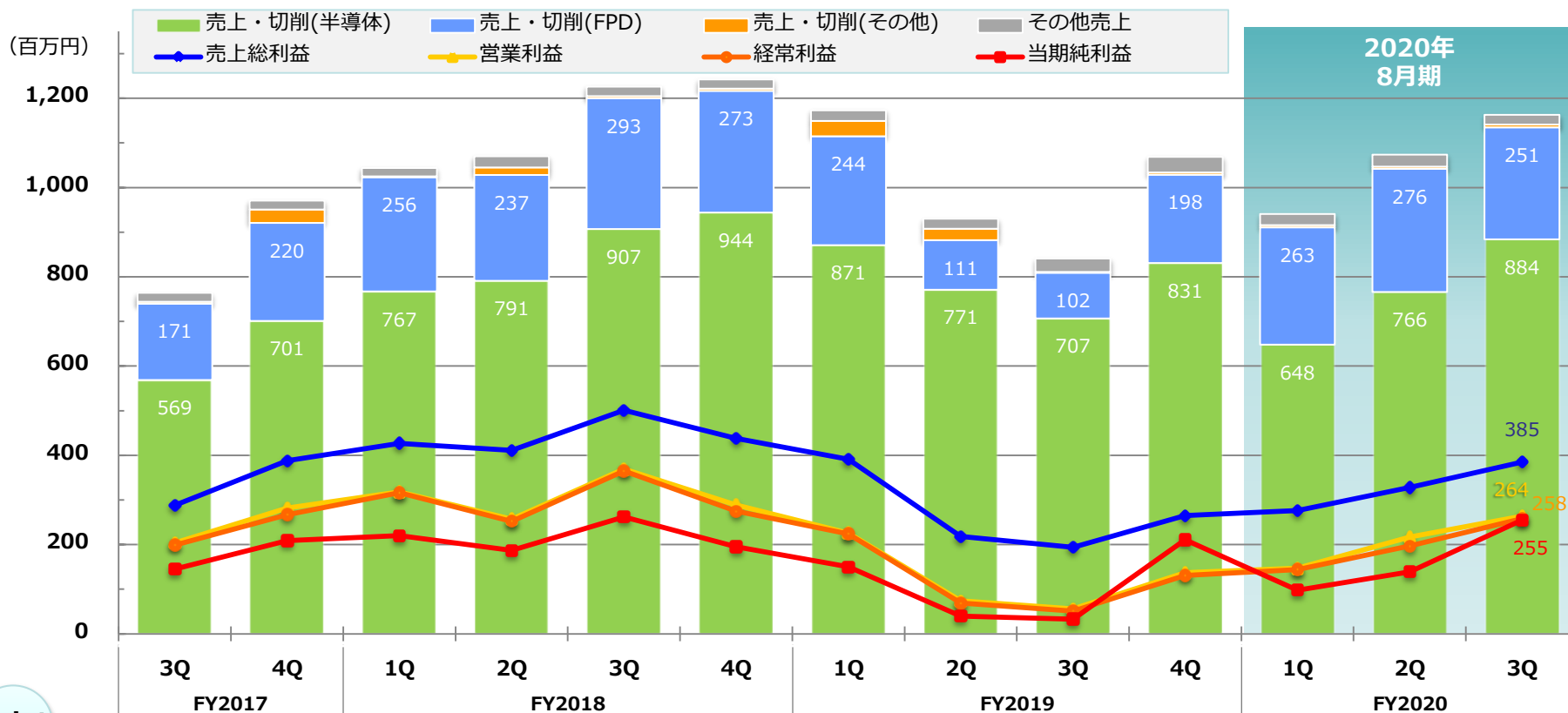
⑤ 特別損益

- 補助金収入：105百万円

1. 決算概要



四半期業績の推移



Point

①売上高は、FPD分野高水準で半導体分野も回復

- 半導体分野：2,298百万円（対前年同期：2.2%減）
 - ・半導体分野は1Qを底に回復傾向
- FPD分野：791百万円（対前年同期：72.7%増）
 - ・EBW（電子ビーム溶接）関連受注による売上増加

■その他分野：17百万円（対前年同期：73.4%減）

②損益面は改善傾向

- ・限界利益率の良い案件が増え、変動費は低減
- ・昨年末までに生産設備の増強を行ったことにより、減価償却費が増加

※グラフは四半期毎の会計期間の数値ですが、ポイントのコメントは当期の累計期間の数値となっております。

1. 決算概要



B/S分析

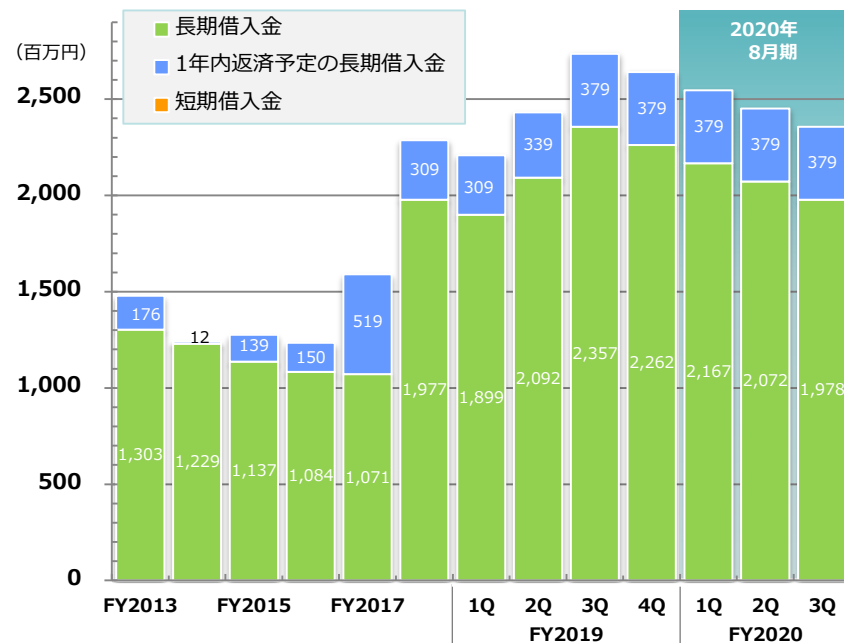
B/S

	2019年8月期 会計年度末 (百万円)	2020年8月期 第3四半期末 (百万円)
流動資産	3,607	4,100
現金及び預金	2,263	2,378
売上債権 (受取手形・売掛金・電子記録債権)	834	1,215
たな卸資産	435	491
固定資産	4,721	4,507
建物・土地	2,448	2,381
機械及び装置	2,009	1,869
流動負債	731	1,087
有利子負債(短期)※	379	379
固定負債	2,289	2,011
長期借入金	2,262	1,978
負債合計	3,021	3,098
純資産合計	5,307	5,508
総資産	8,329	8,607

※ 有利子負債(短期)：短期借入金+1年内返済予定の長期借入金

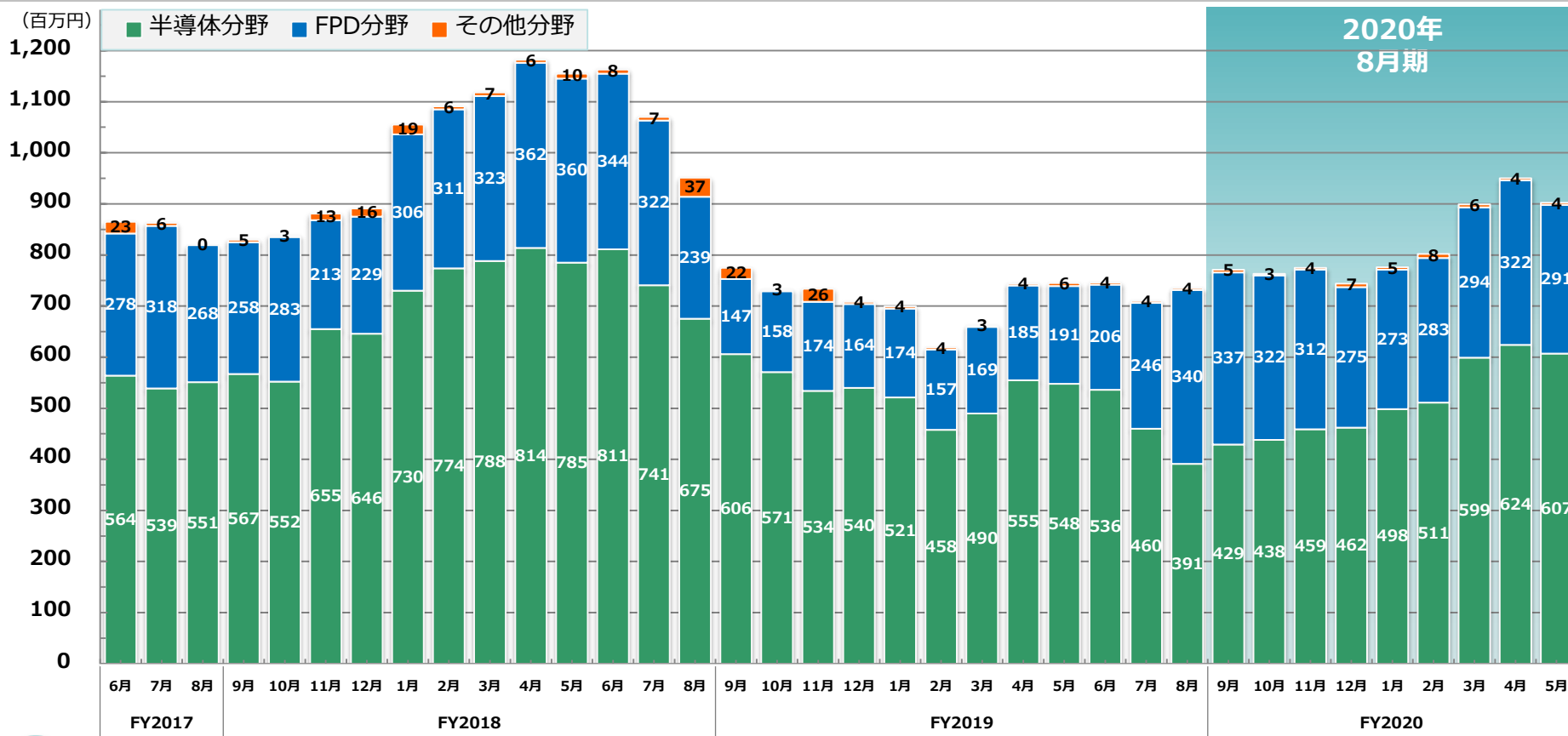
Point

- ① **資産：8,607百万円(前期末比:278百万円増加)**
 - 売上債権：380百万円増加
 - 現金及び預金：114百万円増加
 - 有形固定資産：216百万円減少
- ② **負債：3,098百万円(前期末比:77百万円増加)**
 - 未払法人税等：142百万円増加
 - 長期借入金：284百万円減少
- ③ **純資産：5,508百万円(前期末比:200百万円増加)**
 - 利益剰余金：362百万円増加
 - 自己株式：161百万円減少
 - 自己資本比率：63.7%→64.0%



2. 事業環境

月次受注残高の推移



Point

- 半導体分野は、ロジック向けが減少しながらもメモリ向けが好調
- FPD分野は、中小型パネル向けは概ね好調に推移。大型液晶パネル向けはEBW関連が好調
- その他分野は新たな動きなし

※当社の受注は、案件ごとに長短さまざまなリードタイム（LT）があり、LTの長い案件が多いと売上高にくらべ受注残が多めで、LTが短い案件が多いと売上高にくらべ受注残は低めに表れます。

今後の販売分野別の環境と方針等

半導体分野

- ◆ ロジック向けは一時減速、メモリ向け急回復続く
- ◆ 現時点では新型コロナウイルスによる当社への影響は少ない
- ◆ 市場拡大に加え、新顧客の拡大開始

FPD分野

- ◆ G6 OLED（有機EL）設備投資続くも、計画縮小
- ◆ 新型コロナウイルスの影響で市場減速
- ◆ 同業者の撤退もあり、案件少なくともシェア拡大傾向続く

その他分野

- ◆ 部品製造の総合力を活かし新規顧客からの受注狙う
- ◆ 生産余力を活かし半導体とFPD以外の受注進める

3. 2020年8月期の業績予想

今期の見通し（損益・設備投資・固定費要因）

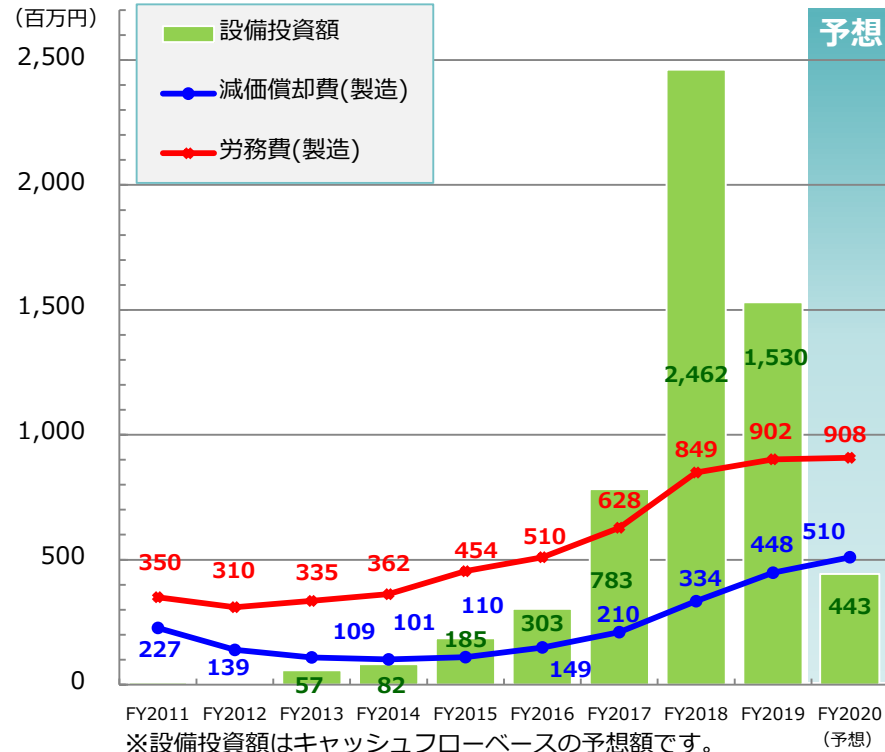
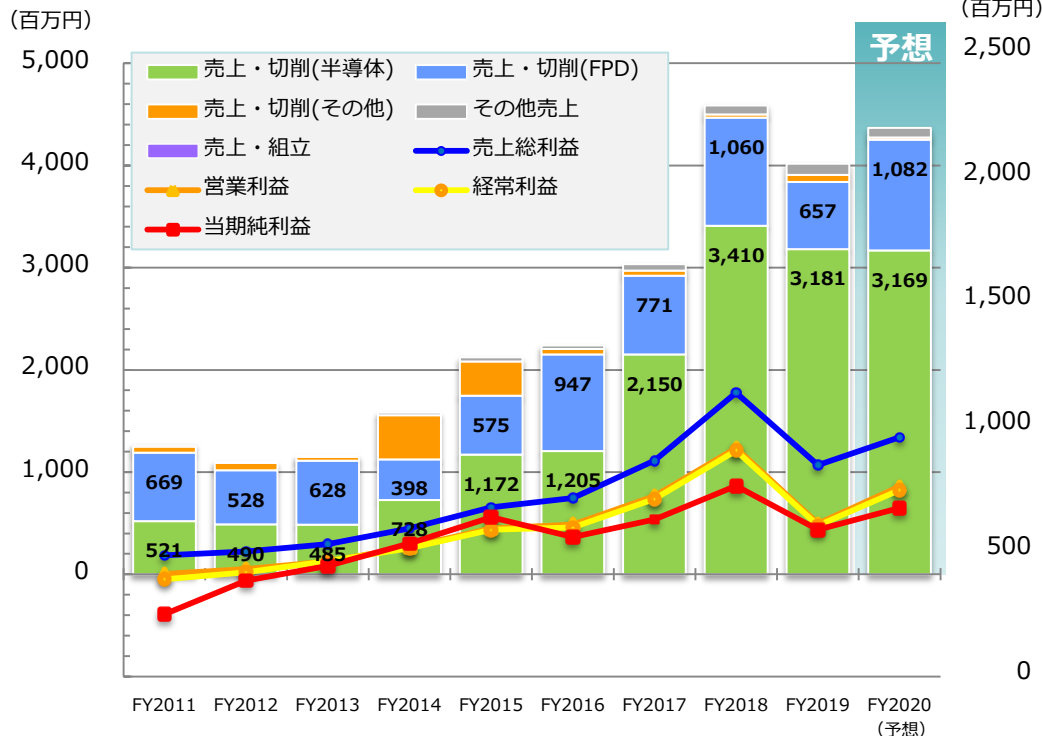
業績
予想

2020年8月期 業績予想	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	純利益 (百万円)	1株当たり 純利益(円)
通期	4,364	858	825	648	50.06

6月10日に「業績予想の修正に関するお知らせ」を開示。
材料費や外注費等の変動費の減少傾向が続いていることから営業利益は改善し、それに伴い経常利益・当期純利益も改善する見込み。

Point

- ✓ 半導体分野では新型コロナウイルスの影響でスマホの減少など影響出たが、PCやサーバーの需要増で相殺
- ✓ 新規品の生産ひっ迫もあり設備投資再開
- ✓ FPD分野は減速感あるも、新規品種で補う



本資料に掲載された情報、及び、口頭によって説明された実現していない内容に関しては、ある一定の仮定の元に予想された見通しであり、マルマエ経営陣の判断など不確実要素を含んでおります。

本資料は、株主・投資家などの皆様にマルマエの現況と経営方針をご理解いただくために作成されたものであり、利用者に対して、当社株式の購入・売却など投資判断を提供するものではありません。投資に関する責任は負いません。

数値などの情報には注意をはらっておりますが、掲載の内容については未監査の数値も多く、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報、またはその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料に関するお問合せ先

株式会社マルマエ 管理本部総務課 IR担当

ir@marumae.com

TEL 0996-68-1140 FAX 0996-68-1151



Company Profile

企業情報

当社製品は世界中で半導体・液晶製造装置の心臓部を支えています

主要工程

エッチング
CVD
コータ/デベロッパ
スパッタ
枚葉洗浄
アッシング
ウエハーボンディング
イオン注入
アニール

主要製品

真空チャンバー
シャワーヘッド
排気板
静電チャック
ヒーター類
上部電極
ターゲット
搬送系パーツ類
各種真空パーツ類

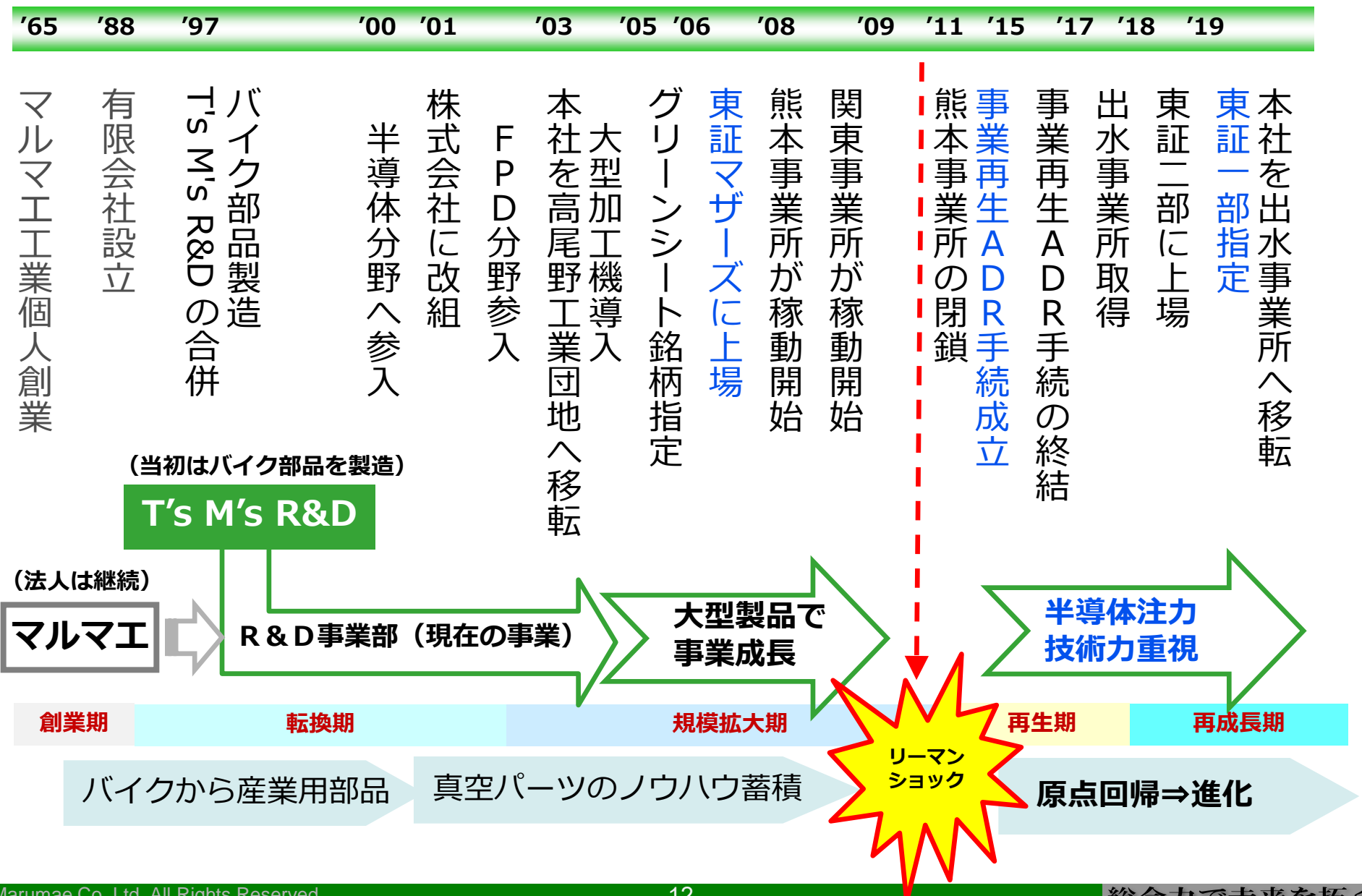
※画像はイメージです

参考資料（会社概要）

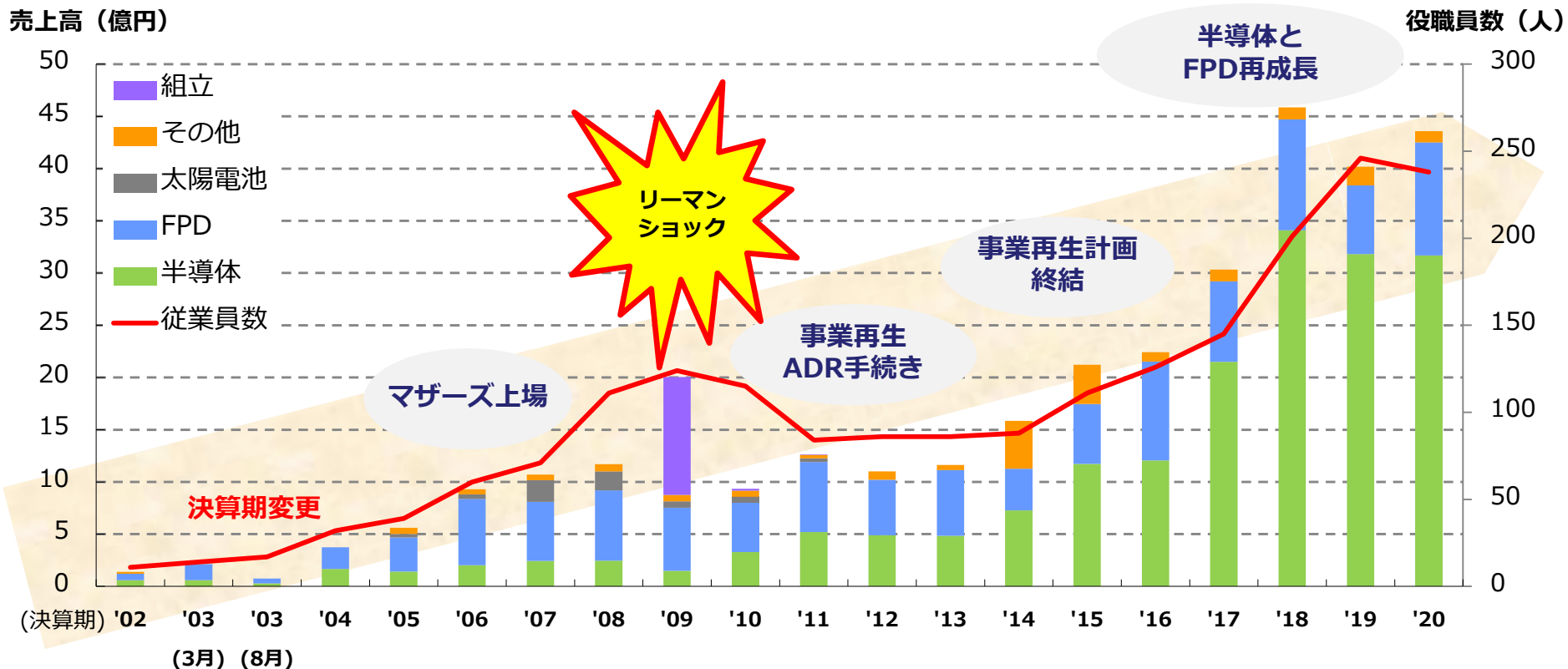
会社名	株式会社マルマエ (Marumae Co., Ltd.)
設立	1988年10月
資本金	12億4,115万円 (2020年5月31日現在)
役員	代表取締役社長 前田 俊一 取締役 海崎 功太 取締役 (監査等委員) 兒島 吉二 取締役 安藤 博音 取締役 (監査等委員) 桃木野 聡 取締役 (監査等委員) 山本 隆章 取締役 (監査等委員) 宮川 博次
従業員数	238名 うち 臨時雇用者等 88名 (2020年5月31日現在) 他 派遣社員16名
所在地	出水事業所 〒899-0216 鹿児島県出水市大野原町2141番地 (本社) 高尾野事業所 〒899-0401 鹿児島県出水市高尾野町大久保3816番41 関東事業所 〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町2-17-15
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・精密機械、精密機器の設計、製造、加工 ・精密機械部品の設計および製作 ・産業および医療機械器具の設計、製造、販売 ・ソフトウェアの開発、販売 ・製缶工事 ・配管工事 ・運送業務 ・不動産の賃貸
経営理念	<ul style="list-style-type: none"> ・技術は究極を目指し ・競争と協調を尊び ・技術注力企業として社会に貢献する <p>経済を支える“モノづくり”の中で、モノづくりの源流である部品加工にこだわっていきます。そして、さまざまな分野で総合メーカーを支えられる企業となるために先端技術と供給力を持つ部品加工のリーディングカンパニーを目指します。</p>

発行済株式総数	13,053,000株	
単元株式数	100株	
株主総数	7,483名	
大株主 (普通株式)	前田 俊一	4,818,100株
	J. P. MORGAN SECURITIES PLC FOR AND ON BEHALF OF ITS CLIENTS JPMS RE CLIENT ASSETS-SEGR ACCT (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	504,400株
	前田 美佐子	504,000株
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	430,600株
	日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	375,700株
	前田 良子	180,000株
	五十嵐 光栄	168,000株
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	164,100株
	川本 忠男	160,600株
	マルマエ共栄会	127,400株
(注) 自己株式が196株あります。 (2020年2月29日現在)		

参考資料 (沿革と事業変遷)



事業成長と成長ドライバー



規模拡大時期

再構築

再成長

技術力醸成

設備大型化
生産力拡大
組立事業

FPD
太陽電池

大型設備整理
生産力再配分
真空パーツ強化

半導体強化

私達は持続可能な経営を念頭に
技術で社会貢献できる企業を目指します